

# ゲノム医療推進についての欧米との比較

## アメリカ

オバマ米大統領が発表したプレジジョン・メディシン・イニシアティブの下、遺伝子、環境、ライフスタイルに関する個人ごとの違いを考慮した予防や治療法の確立を目指し、100万人以上のボランティアからなるゲノムコホートの設立等を含む、ゲノム情報を活用した個別化医療の実現に向けた計画を進めています。

## イギリス

イギリスのキャメロン首相は、ゲノミクス・イングランドという国家プロジェクトを提唱し、2013年から2017年までの5か年計画として、約10万人を対象に、官民連携によるがん、希少疾患等についてのゲノム情報の解析・研究を行っています。

## 日本

ゲノム医療の実用化に向けた我が国の取組は欧米に比べ出遅れていましたが、厚生労働大臣の指示の下、健康・医療戦略室などと協力し、タスクフォースを立ち上げ、国民皆保険制度というアドバンテージを活かした施策を関係省庁と連携して推進しています。



内閣官房健康・医療戦略室  
大坪 寛子 参事官

政府の健康・医療戦略の中心となっているのが、内閣官房健康・医療戦略室です。省庁間のとりまとめ等を行っています。



大臣官房厚生科学課  
椎葉 茂樹 課長

厚生科学課では、省内の多部署にまたがるゲノム医療推進の全体調整を担っています。私は、省内のゲノム医療実現推進本部幹事会の幹事長をしています。



大臣官房厚生科学課  
岡田 就将 課長補佐

私は、幹事長の指示の下、省内の各部署との調整を担当しています。また、研究事業全体のとりまとめを担当しています。



医政局総務課  
勝山 佳菜子 専門官

医政局では、研究開発の推進や検査の質の確保を担当しています。私は薬系技官ですが、様々な職種がその特性を生かしながら、協力して検討を進めています。



大臣官房厚生科学課  
石丸 文至 主査

研究のルールの整備を担当しています。ビッグデータ時代が到来する中、個人情報保護法が改正され、新たな仕組みが必要になっています。



大臣官房厚生科学課  
佐藤 晃一 主査

遺伝子治療研究の担当をしています。人事交流で厚労省に来ており、ゲノム医療の分野では、臨床経験を活かして、新しい施策の企画立案を行っています。



保険局医療課  
林 修一郎 課長補佐

保険局医療課では診療報酬を担当しています。ゲノム医療の推進に向けては、日本の強みでもある保険診療の整備も重要です。



健康局がん・疾病対策課  
秋月 玲子 課長補佐

がん対策の担当です。がんの発症にかかわる遺伝子の特定や、クリニカルシーケンスによる個別化医療の実現などが求められています。



健康局難病対策課  
前田 彰久 課長補佐

私は、難病分野の担当をしています。希少疾患が多い難病では、ゲノム医療は新しい診断法や治療法の開発等につながるのではと期待されています。